

## 第4回「明日の西湘海岸を考える懇談会」 議事要旨

- 開催日時 平成 31 年 1 月 31 日（木） 15 時 30 分～17 時 30 分
- 開催場所 二宮町 生涯学習センターラディアン
- 出席委員（五十音順・敬省略、代理出席を含む）
  - 相原 久彦（神奈川県県西土木事務所小田原土木センター所長）
  - 市川 源一郎（二宮町地区長連絡協議会会長）
  - 座長 宇多 高明（日本大学客員教授）
  - 小又 寛（二宮海岸に砂浜を戻す会代表 （代理出席：小又英一郎事務局長））
  - 加藤 孝（大磯町漁業協同組合代表理事組合長）
  - 加藤 史訓（国土交通省国土技術政策総合研究所海岸研究室長）
  - 加部 裕彦（小田原市副市長）
  - 蒲原 辰弘（大磯海の会議代表）
  - 川辺 みどり（東京海洋大学学術研究院教授）
  - 栗原 匡賢（大磯町副町長）
  - 昆 敏之（国土交通省関東地方整備局低潮線保全官）
  - 佐藤 慎司（東京大学大学院教授）
  - 柴山 知也（早稲田大学理工学術院教授）
  - 澁谷 慎一（国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所長）
  - 武井 正（（公財）相模湾水産振興事業団代表理事）
  - 田邊 邦良（二宮町観光協会会長）
  - 西ヶ谷 修司（大磯町区長連絡協議会会長）
  - 高橋 征人（小田原市漁業協同組合代表理事組合長（代理出席：府川元久事務局次長））
  - 府川 陽一（二宮町副町長）
  - 峯村 徹哉（神奈川県砂防海岸課長）
  - 三枝 薫（神奈川県平塚土木事務所長 （代理出席：宮本信也工務部長））

○ 議事

1. 開会あいさつ
2. 「明日の西湘海岸を考える懇談会」規約改定について
3. 委員紹介
4. 議題
  - (1) 直轄西湘海岸保全対策事業の概要について
  - (2) 神奈川県による海岸保全対策事業の概要について
  - (3) 意見交換
5. その他
6. 閉会

・配布資料

- ・第4回「明日の西湘海岸を考える懇談会」次第
- ・第4回「明日の西湘海岸を考える懇談会」委員出席者名簿
- ・第4回「明日の西湘海岸を考える懇談会」配席図
- ・「明日の西湘海岸を考える懇談会」規約 改定（案）
- ・「明日の西湘海岸を考える懇談会」傍聴規定
- ・第4回「明日の西湘海岸を考える懇談会」 京浜河川事務所資料
- ・神奈川県の海岸保全対策事業の概要 神奈川県資料
- ・パンフレット（案）

## ○ 議事要旨

### 【養浜材料について】

- ・(委員) 養浜材は、酒匂川の上流の良質な礫を採用すると、汀線付近に養浜土砂が歩留まるため、沿岸漂砂礫流失抑制施設を整備せずとも海底谷への流出を防げるのではないかな。
- ・(座長) 養浜材の砂礫の大きさの検討や利用できそうな底質がどこにあるのかという検討も同時並行で実施していただきたい。
- ・(委員) 小田原地区で現在年 2 万 m<sup>3</sup> 程度の養浜を実施しており、河床が下がっている状況にある。36 万 m<sup>3</sup> (毎年 2~3 万 m<sup>3</sup> ずつ) を上流で掘削すると深掘れするのではないかな。また、ダムに近いところでは、ヘドロなどを含んでおり海岸に不向きな底質であるため、調達できる材料について検討していただきたい。
- ・(委員) 二宮の突堤 2 基の付近に海藻群落があるため、むやみに養浜をして生態系を壊してしまうことを懸念している。
- ・(座長) 国が養浜を検討する際に、海藻群落等を保護するために、その水深や材質などわかっている情報を共有しながら進めていただきたい。
- ・(委員) 養浜実施時には海藻だけでなく生態系への配慮はきちんとやるべきだと考えるが、その一方で、生態系は環境によって変わるため、絶対にそこをつぶしてはいけないということでもない。ある程度配慮しながらも、場合によっては場所を移す等、そういった柔軟な対応が必要である。
- ・(委員) どのように生態系あるいは環境を保全していくのかというのは難しいが、漁業者のそういった知識が工事する側の事業者へ伝わる場を設け情報共有を図ることが望ましい。

### 【岩盤型潜水突堤の整備について】

- ・(座長) 仮設の鋼管杭が現在建っている状況で、今後西へ向かって斜路を作ることになっている。斜路の法先に広がる砂浜の標高は 2m 程度だが、H29 年の高波のような強烈な高波が来襲した時に安全は確保できるのか。突堤 1 基整備するのに約 3 年かかるため、長い年月健全な状態で保つ必要がある。
- ・(委員) 長い間、海岸に 4m の盛り土が残っているのは影響が大きいと思うので、鋼管で透過性にした方がいいのではないかな。
- ・(委員) 1~2 年前に覆工板がすべて海へ流されたことがあったが、きちんと固定をしていただけなのか。また、二宮地先は水中では 60t ブロックが簡単に動くので、そのあたりも踏まえてブロック重量の検討をしていただきたい。
- ・(座長) 施設整備工事中に、多くのブロック、鉄、コンクリート等を海岸線に長期間並べるのは海岸の景観に関わってくるので、できる限り早急に現状復帰することを原則としていただきたい。

【岩盤型潜水突堤の効果について】

- ・（委員）岩盤型潜水突堤は、高波浪時に突堤の役割を果たすことはわかるが、平常時の漂砂の移動を妨げないというのは何か実績があるのか。
- ・（座長）激しい波は、左手前前方や右方向から来ることもあるため、調査や対策ではそういった波も考慮しておくべきである。また、森戸川河口に位置する海底谷へ土砂が流出してしまう可能性も否定できない。そのため、あらゆる現象もモニタリングをして幅広い目を持って工事を進めていただきたい。
- ・（委員）岩盤型突堤を 6 基設置する予定になっているが、十分な効果は見込めるのか。

【ブロックの移動状況について】

- ・（委員）波消しブロックのチェーンは年中潮に当たると摩耗して壊れてしまうのではないか。

【今後の予定について】

- ・（事務局）栈橋部分はほぼ完成しているため、今年度は斜路部分を概成させる予定となっている。平成 31 年度以降に、工事用道路、波除工、本体部分を順々に進めていく予定である。

以上